

第75回 あまみエフエム放送番組審議会

1. 開催日時 令和元年8月21日(水) 19:30～
2. 場所 奄美市名瀬金久町4番3号2階 あまみエフエム 会議室
3. 出席委員 5名
袴敏郎、山田紘一、師玉龍一、
後藤美穂子、大山真紀(敬称略)

あまみエフエム 6名
渡陽子、手蓑慎之祐、石岡真夏、田畑誠、東蘭、保紡義

4. 議題

(1) 審議1：番組内容の審議

「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」

放送日時(本放送)：毎週 日曜 10:00～(約20分)

(再放送)：翌日 月曜 9:15頃～(約20分)

審議2：その他、質問など。

-放送局 渡

みなさん、よねやうがみんしょうらん。時刻が19:30をすぎましたので、これより第75回あまみエフエムの放送番組審議会を始めさせていただきます。今日も宜しくお願い致します。今日からですね、今回の番組審議会から新メンバーが一人入りましたので自己紹介をしたいと思うのですが、保くんお願いします。

-放送局 保

はい。先月7月10日にあまみエフエムに入社しました。保 紡義と申します。よろしくお願い致します。

-放送局 渡

ディレクターという役割で入ってもらいますので。若い力を借りてまた、より良い放送を目指していきますので宜しくお願い致します。

-放送局 保

自分は島のことを知らずに東京に出てしまって、奄美大島の事をもっと知らないといけなかったなと思って戻って来ました。いろんな番組に携わりながら歴史とか今の地域のことを勉強していきたいと思っております。よろしくお願いします。以上です。

-放送局 渡　　ご指導宜しくお願い致します。

-放送局 保　　お願い致します。

-放送局 渡

またご報告なんですけど、先日、奄美警察署から行方不明者の捜査協力願いがありましたので、ラジオで放送させて頂きました。連絡もらってすぐ30分ぐらいで放送に反映したところ、たまたま車であまみエフェムを聴いてくださった方が行方不明者を発見し、無事に保護することができました。また、ラジオで情報提供をしたことにより、すぐ発見できたと言うことで、警察から表彰もして頂きました。

またこれも日頃聴いてくださる皆さんのおかげですので、本当にありがとうございました。もし迷い犬などいましたら是非ご活用ください。

-禱 委員長

新聞で、その表彰の様子の記事見ましたよ。

-放送局 渡

はい。ありがとうございます。そして本日は欠席の方々がいらっしゃいますけども、今日5名の皆さんに参加して頂きますので、よろしくお願いします。ここからまた審議内容について禱委員長お願い致します。

-禱 委員長

はい。みなさん、こんばんは。今回は「シマグチNEWS しまゆむTIME」ということでありましたが、今回早く送られてきたので一回家で聴いたんですよ。今回シマグチNEWSに出演した三人はみんな北大島関係で。西さんはそんなに知らないんだけど、今里さんと平さんは、よく知ってる人で。話もわかりやすく。歳も今里さんが同窓で久美さんがちょっと上なんだよね。ということで、内容的にも、自分に近いところがあったんだよね。でまあ、内容は奄高チャレンジショップのラスク販売という記事があったのですが、私なんか昔、北高とね、ばしゃやまでコラボしてふくらかんを作って販売したことがあるんですよ。だからなかなか興味深く聴かせてもらいました。中でも特に番組の中で興味を持ったのが、ハイビスカス植樹を除去するって言うのがあって、それを元山村長が決断したということだったのですが。まあこれもほら世界自然に向けて大変よかったんじゃないかと思います。あれを聴いたあとに、南日本新

聞だったかな。今日来られてないけど、千葉さんもここにいるよね？千葉さんの談話がちょうどそのハイビスカスの撤去について掲載されていたので。もったいないけど仕方がないというお話でしたね。まあその後は田植えの話。特に自分なんかも元々は農家だったんで。なんていうのかな自分が生きた時代を、みんなが喋ってくれたっていうので大変懐かしく、まあ自分なんかの仕事は苗投げってわかる？前はモエっていうのがあってね。こう田んぼがあって、そしたらいくつかの家庭が集まってその田植えを一斉にするわけよね。次々。そしたら自分なんか小さいから、苗を投げていくわけよ。人の後ろに。そして二人で縄をはるわけよね。紐をはって、こう一列になるように。まあそういった仕事もやってたんだけど。その前に田んぼをならさないといけないんだけど、特に番組を聴いて面白かったのが、久美さんが言っていたソテツの葉を肥料代わりに入れとったって話。痛いよね。横になってたら良いけど縦になったら足に刺さるんだよ。足をこすりつけてちょっと固くして入って。そういったのも凄く懐かしかった。そういうことでまあ、自分なんかのシマグチで語り伝える番組自体の試みっていうのは大変意義があるのでもっと続けてほしいというのと、もっと頻度を多くしても良いのかなと。それと方言を子どもなんかに教えるっていう、そう言ったのなんか講座みたいなのも、あまみエフエムさんから提唱して進めていくのも良いんじゃないかな。

-放送局 渡

はい。番組としてスピノフとして。シマグチ教え番組ですね。ありがとうございます。

-祷 委員長

自分が感じたのは、番組の中でもたいへん楽しい番組だったと思います。

-放送局 渡 ありがとうございます。

-山田 委員

すみません。仕事が忙しくて、CDを聞くことができなかつたんです。その中で私もハイビスカスの件は、私の集落でも、平成4年に老人クラブの皆さんが沿道に植樹したサクラがあるんですよ。ヒカンザクラ。これも外来種って言うんですよ。こう押し詰まったときに、これは外来種よっち言う事自体がおかしいと思ったわけ。集落のみんな、私なんかはサクラが咲くのを楽しみにして、老人クラブの記念に植えているんだよ。その当時わかっていたら別に植えなかつたんだけど。これを今自然遺産になるからって、言うのは良くないんじゃないかと思ったね。外来種っちいうのは私なんか目の前にあつたんですよ。そんな風に言うなら外来種と希少種をもっとね早くPRせんばねえ。前もフナンギョの滝で作業員がね、希少植物を伐採して奄美新聞に載つたんですよ。だけど、みんな作業員もわからんがね。外来種が何かを。その中で私たちが生活してきたんだから。なのに今頃外来種はなんとかしなさいって言っても。宇検の村長さんが勇気ある行動かわかりませんが、サクラはいくら言われても切りません。これも大事にしなげらね、やっぱり植えた方で亡くなつた方が多いので、その人の想いがあるから、サクラを守りながらま

たしようと思っております。

そして、ラジオで今ね、私放送してもらいたいのは、老人クラブの方々が昔の遊び方とか工作とかね。竹馬とかほうき作りとか、こういうのを教えるのがないんですよ。こういったのが放送できたら、ずっと伝承していくんじゃないかっと思うんです。子どもも少なくなっていますけど、そこに興味持っていますので、そういうのが伝承できたら良いなっと思っています。すいません。今回のお題のCDを聴くの忘れましたが、また帰ってから聴きながら反省にしたいと思います。

-放送局 渡 はい。ありがとうございます。

-師玉 委員

はい。聴かせて頂いたんですけど。どれもなんか凄く面白く聴かせて頂いて、本当にいっぱい放送して欲しいなと思いました。委員長からもありましたけれども。放送回数増やすのもいいかなと思います。内容ですが、シマグチが2,3聴き取れない部分があって、ちょっと困った所もありました。まあそれも調べるきっかけになりました。父親に聴いたりしながら。聴いた事はあったんですけど、やっぱりハイビスカスの件とか特に強く印象に残りました。ハイビスカスの撤去の件ってなんでこんなことするんだろう。っていう所から最初に聴き始めました。飛ばしてですね。で最初「あ、なるほど」と思いました。先々の未来の事を考えれば、まあ普通の事なのかなあと思いました。いろんな意見があると思いますが、この番組で取り上げられて、聴く事で知らない事一つまたここで知識になったなあと思いました。こういった内容をもっと知りたいなど。まあ地区に限らず、他の場所でもそう言った問題は沢山あるでしょうし。ごめんなさい、僕もあまり詳しくはないのですが。島のニュースを取り上げる番組はあまりないのですかね？島でこういったことがありました。など。

-放送局 渡

はい。あまみエフエムではニュース素材としては生ワイド番組で朝の番組と夕方の番組で地元新聞の記事をお借りして、ニュースをご紹介させて頂いています。また、シマグチ NEWS という番組に関しては、シマグチを普及啓発したいという意味で、収録する前の一週間にあった島の面白い話題とか、何か難かけになる話題についてチョイスをして、番組で記事を作っております。

師玉 委員

じゃあ趣旨としては、シマグチの継承というのが最初に来て。素材は何でもいいということですかね？

-放送局 渡

素材は島の出来事を紹介したり、また語り部の方によってはその地域と関わりがある方がいらっしゃるんで、その人に合わせた語れる内容についてなるべく探しています。

師玉 委員

どういう風に語って頂く方を選出されているのですか？

-放送局 渡

この番組に関しては、「シマコムタ伝える会」という会がありますので、その方々を中心として、構成しています。高齢化もありますので、メンバーの方からさらに広がっていき、シマグチを話される方を紹介して頂いて、番組の語り部として出演して頂いています。

師玉 委員

そうなんですね。伝えたいニュースは沢山あるとは思いますが、なので、そうやって番組内で紹介する機会を増やして行って、語れる方が増えてきたら、また楽しい放送になるのかなって僕的には思います。

-放送局 渡

ありがとうございます。ですが、シマグチを話せる語り部の方を探すというのはとても難しく、課題でもあります。高齢化していますので、特に先ほどお話があった今里信弘さんなど、若い方でシマグチが堪能な方がもしいらっしゃったら出て頂きたいです。本当に高齢化しているので、例えば今までに月に一回出演していた方々が月に二回出ないと回らないとかいうような状況です。なので、語り部を探していますが、大和村の方などシマグチを話される方がいらっしゃったら、教えて頂きたいです。

大山 委員

今回この内容をお聴きして、本当に振り幅がいっぱいあって楽しいラジオだなと思いながら、方言を凄く身近に聴いていたんですけど、こうして凄く集中してこの内容を聴き取ろうと一生懸命聴くのは初めてと言いますか、あまり無かったんです。番組を聞いていて、たまに何を言っているのかわからない自分もいて、隣で聴いていた小学校一年生の息子が語り部のみなさんの言葉を「なんて言っているの？」と聴いてきまして、「内容をちゃんと聴いているんだ」と思ってちょっとした驚きと、「わからないんだ」という驚きがありました。私も聴きとれるけど喋れない、もどかしいなという気持ちもありつつ。さっき言われたように『シマグチの方言の会』『お勉強会』のようなものがあっても良いなあと。音源として残るっていうのもありますし。それで、私の話なんですけど、西古見の方言を、仕事の傍らに研究されて拾い上げていた方がいらっしゃいまして、^{トミヤマ}富山さんという方なんですけど。富山さんのお話を聴いていても方言ってすごいなあって思います。計り知れないほどに。「日本のここって繋がりが深いんじゃないかな」と思わせるぐらい大事な言葉なんだけれど、私たちが喋れないし、私の母も喋らない世代でして。その世代の子どもなのでもどかしいです。もしレッスンCDがあったら英語ではなくて、それを聴きながら運転や子どもと勉強する機会があっても良いなって思いながら聴いていました。番組の内容に関しては、笠利の出身の語り部の方々が、昔話で自分たちの小さい時の話から見える奄美の生活や知恵、文化が見え隠れする会話がこの番組にあって、この方達がいなくなったらシマグチがわからない世代になるので、シマ

グチをラジオで話すという事は、音源として残るのでとても貴重な行いだなと思いました。

で、私もハイビスカスの話は最初に新聞で知ったんですけど、新聞を読んでいた旦那が思わず「へー！」って言ったから私も「なにー!？」とか言って(笑)。島の自治の事をシマグチという形で取り上げているって凄いなと思いました。楽しい事だけでなく、今の奄美で起きている問題をみんなで意見を出し合い、私もハイビスカスの件は自分の中でもモヤモヤしていたんですよ。何年前か、島に雪が降ったときに初めて湯湾岳に行ったんです。大和村から登ったんですけど、ハイビスカスが結構あるなって気がつきまして、雪とハイビスカスという印象が残っていて、それを取るのかと思ってしまって。以前、秋名でも外来種を取る作業っていうのがあって、その花は小学生の時虫捕りをしていた時に咲いていた花だったからなんか複雑な気持ちになりました。先ほどお伝えした富山さんは、「外来種ってみんな言うけども、長い日本の歴史のスパンで考えて、その中の奄美のスパンを考えると、米だって外来種なんだよね。」とおっしゃっていました。だから私の解釈だと、長い歴史の中で入ってきたものもあって、その土地に合わないものは消滅していった。多分、松食い虫の松も長い年月をかけて人間が入れたんだけど、奄美の山が受け付けなかったんだろうなって勝手にそう思っていて、人間の頭では計り知れない自然界のやり取りがあるんじゃないかと。話しておいてちょっと熱くなってきましたけど(笑)。私はそういう風に捉えています。だから、ハイビスカスも昔の方が苗を島に入れて、それがそこに根付いているって事なんだと思います。もちろん山を見ていると、あの外来種は山をどんどん陰にして山を暗くして、あの辺が鬱蒼としている。あの外来種は、私は好きじゃないとか、そういうのがあるんですけど。外来種ってみんな言いますが、実際の所どうなんだろうなと私はモヤモヤしています。また、そういうことをラジオで話されている事が私もまた考えるきっかけをもらって、この番組審議会で発言させて頂いて、良い機会を頂けて良かったと思っています。で、さっきおっしゃられていた老人クラブの遊びをラジオでも取り上げる話も、私も前から思っていて、この前息子の小学校で親子読書会というのがあるんですけど、そこで「嘉原カヨリさん」といって昔の遊びをずっと伝えて行かれている方で、その方に子どもたちを集め1時間ほど講師をして頂きまして、今年で2回目なんですけど、見ていると凄く単純な遊びでした。今の子って結構、物が無いと遊べなかったり、ゲームだったりそんなのばかりなんですけど、物が無くても言葉のリズムだけで大人も子どもも盛り上がったんです。結局、終わる頃にはみんな夢中になって単純な動きや言葉だけど、時代が変わっても、みんな一緒なんだなっていうのを2年目の今回も感じたんです。そういうのがラジオでもあったら良いなと思いました。記録に残るって大事なのかなと思いました。以上です。

-放送局 渡

ありがとうございます。

後藤 委員

私もこのラジオは本当に面白いなと思いました。丁度、シマグチを話せたらと思っている所だったので英語のレッスンのテレビみたいに言った後にリピートして練習しようかなあって思ったので、この番組は凄い良いなって思いました。「良いなあ」っていう所をもうちょっと説明すると、今の記事を方言で話

すっていう事が私には凄いびったりでした。というのも、この番組の後半は田植えの話でだいぶ盛り上がった所は方言がわからず、想像でなんとなくこんな事言っているんだろうなっていうのはわかったんですが、その文言、単語自体もわからないし、言い回しは前半の新聞の記事を訳したところで一回聴いているので、それを応用してなんとなくわかりました。「なんとなくわかる」と「全然わからない」がリンクしてシマグチの勉強になる丁度良さがあって、現在の新聞記事を訳してシマグチでお話されていると思うので、それが本当に丁度良いなって思いました。また、新聞の感想を言って盛り上がるという全体的な流れも凄く良いなと思いました。また、喋れる年代は56歳くらいがギリギリ、シマグチと関わってきた人は喋れるけど、そうでない人は聴く事はできるけど喋れない。私たちくらいの30~40代になると聴くのもおぼつかないけど喋れない。もうちょっと下の世代の子は、同じかもっとわからないみたいになるので、この番組は凄い画期的で新聞記事を読んで「あ、この内容だ。」って知ってる事を話して訳してくれるので、本当に続けて欲しい番組だなと思いました。で、その内容なんですが、特にみなさんもおっしゃったように、ハイビスカスの件は私も仕事で関わってたんですけど、このラジオ番組作ってる皆さん方のおっしゃったみたいに、宇検村でハイビスカスの植樹に関わった人たちの意見みたいなのも聴けるのがいいと思いました。今、仕事で行政で関わっている人たちって、集落側の思いはわからずにいる事があります。排除すべきかで考えて、でも先人達が作ってくれたものって悩むところなんですけど、その人たちの意見が聴けたっていうのは凄い良かったですね。心が痛むところがあったけれども、今のこの状況に向けて取り組んでいかなきゃいけないのくわかる、っていう立場と、昔からこの木は外来種っていうのを知ってて、もういらぬ木だって思い続けてたっていう人の意見もやっぱりあったので、だから、本当にラジオを通してそういう一般の方の、実際の新聞ニュース記事を読んだときの意見を聴けたのがよかったなあと思いました。あと他に言いたい事があったんですけど。そうですね、そんな感じです、、、。もう一つ、そうだ。すいません。私は行政で働いていて、自然遺産とか観光とかも担当してたのでわかるんですが、シマグチを残していこうって、行政も、教育委員会も動いているんですが、どうしても、どうやって残せば良いのかわからないんですよ。大山さんもおっしゃったように、書籍とか単語とかが残っていても、それがなんて発音するのかとか、どんな使い方をしたら良いのかっていうところで、行政が作ったとして「てい一つ」ひとつ「た一つ」ふたつみたいな、そういう残し方はできるんですけど、こうやった会話がなかなか残せない。ってのがあってこうやって音源を残していつていつかは、これを聴く側の意識が高くなれば、ラジオで過去の物も、もうあまり聴けなくなっているとは思いますが、凄いテキストになるんじゃないかなって思います。音で残すってのは凄いなっていうのがありました。本当にずっと長い番組として残していつてもらいたいなっていうのがありました。で、もう一つすいません。思い出したんですけど、地域に入っておじいちゃんおばあちゃん同士だとかの会話を聴いてると確かにシマグチっていうのが、何を喋ってるのかっていうのが理解できてくると思うんですけど、でもよく、学ぼうっていう場で言われるのがシマグチが難しいのは敬語だよっていう話をしてて、でもこの番組を聴いて、皆さんちょっとづつ年齢が違うので、敬語で話していて、このラジオで話しているのをまず覚えれば自分がどこにいつても失礼にあたらぬ言葉を覚えられるのかなと思いました。なんかちょっとした友達との会話とか同級生との会話を聴くよりは間違いのない、失礼のない言葉を、言葉尻と

かを聴けるのかなと思います。本当に同年代の人が喋る会話を残すのも良いんですけど、そういった意味でもこの番組は凄く勉強になると思いました。

-放送局 渡

ありがとうございます。年齢構成、また組み合わせを考えていきます。

後藤 委員

はい。どれが敬語なのかっていうのが聴けるのがすごく勉強になります。

-放送局 渡 ありがとうございます。

後藤 委員

あまみエフエムで紹介してくださってる、大和村のラジオでも村長がシマグチを喋ってます。

-放送局 渡 はい。素晴らしい番組です。

後藤 委員

それがまさに同級生同士でなんか『バカ』とか『アホ』とか言わないようにしながらって言いながらも、なんかそういう同じ同級生だからできるやりとりをしてるので、それを真似て私が上の人に話すと多分失礼にあたるっていうのがあるので、なかなか難しいんですけど。この番組は言葉尻が凄く丁寧だったり言い方が優しかったりイントネーション、ニュアンスとかが違ったりするので、勉強になるなあと思いました。

榊 委員長

ありがとうございます。今後藤さんの話を聴いてなんだけど自分もそれは感じたことがあって。このタイトルが「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」ってなってるがね。そしたら、あのニュースの方は自分も最初は新聞で読んであるし、方言もわかるから良いんですけど、この番組の内容的に奄美のニュースと完全に切り離されているようなイメージがあったわけよね。その田植えの話とか。稲刈りから田植えの話なんだけど。そしたらやっぱり聴いてる人も、後藤さんなんかもわからなかったと思うんだけど、できたらそのしまゆむ TIME を理解できなかったんだったら、その関連性をつけるように紹介したらいいんじゃないかな。例えば自分が興味あったのはそのハイビスカスの除去について。あれをもうちょっとつっこんで、この記事を紹介する人だけじゃなくて他の二人にも、話を広げていってどう思うかちゅうのを入れると、方言がわからん人でも、ある程度わかるんじゃないかちゅう気がしたね。だから番組のこの二つね、なんていうのかな。じっくり来ないちゅうのかな。まあ二つとも面白くはあるんだけどね。それと全く関係ない話して良い？さっきも出たんだけど、朝の南海日日新聞と夕方の奄美新聞のニュースを

紹介するじゃない。あれ一回は読む練習したほうが良いかなと思う。方言で言うんだったらあれだけど、普通の日本語で言うときに、あれ読んでないなあっていうのがわかるわけよ。例えば漢字が三つ続いたときに二つ目で切って、三つ目を言う時とか。言ってる意味わかる？本当は続かんばいかんのに段落が変わってると、例えば「一貫性」というのを「一貫」っちいってから「性」ってなるとどうしても聴きづらいから。そこはちゃんとやった方がいいんじゃないかなって、番組関係ないけど。

-放送局 渡 はい。すみません。そこは、きちんとやろうと思います。

山田 委員

渡さんのシマグチを聞くと、おばちゃんなんか懐かしく感じてますよね。やっぱり今、シマグチを残していかないと、年配の方はどんどん亡くなっていってるから。シマのこと忘れられていくっちょ。本当にこういうのを伝えていくのって大事だっち思う。よく私もこの番組聴いてます。結構聴いてますよ。シマグチ言うのは簡単ですが、書くのが難しいんですよ。シマグチを書くのが。みんなが話すシマグチは自分で書ききらんですよ。字で表しきらんから、こうやって聴くことは大事じゃないかと思った。本当ね『ありがっさまりょーた』っち書いてごらん。なかなか書けんが。

袴 委員長

自分はいつもメモ持ってるわけよ。そしたらそこに、例えば今言ったように『ありがっさまりょーた』って書いてその意味を書いて、ひとまとめにしてるわけよ。方言で言ってる言葉が日本語に訳せんときがあるわけよね。

山田 委員

方言は所変わると背中歩きでみんな違うっちょ。方言がね。話し方がよ。大和村と住用も違うし、住用の14集落の中でも違うわけよ。

袴 委員長 今回の番組でも、西さんが「しよ」って言ったのわかる？

-放送局 渡 はい。佐仁のこと「しよー」っちおっしゃいますね。

袴 委員長

あれなんか「出身」っち言うことなんだけど他のところでも使わないわけよ笠利町でも。

-放送局 渡

あっ、「佐仁」と言うのが「しよ」と言うと思っていました。違うのですね。「出身」という事なのですか？

袴 委員長

そう。だから自分なんか全然あっちの方言はわからないもん。ほら昔は舟で行きよったから、「パナウル」と前も言ったかなっち思うけど「パナ」っちいうのは「花」、「ウル」っちいうのは「サンゴ」のことよね。で自分なんかは食べる箸っち「ハシ」っち言うけど、あちは「パシ」っちいうわけね。「パピプペポ」を使って。与論も「パピプペポ」なわけね。だからあっちと与論は似てるけど、隣の屋仁とは似てないからね。屋仁とか用とは似てない。佐仁だけまた独特な言葉なのよ。佐仁の人なんか喋るシマグチはわからないよ。

後藤 委員 なんか言いますよね。そんな風に。

山田 委員

言葉っち難しいよな。食べ物の中でイモを「トン」っち言うわけ。「ハヌス」っち言ったり、それもいくつもあるわけよ呼び方が。その集落また市町村で違うじゃない？そういったのも、良い参考になるんじゃないかい？

後藤 委員

本当に「うがみんしょうらー」「しょうらー」っていうとこと「しょうらん」って言うところとありますもんね。

-放送局 渡

今、お話頂いたように、集落ごとに言葉が違う。生物多様性と良く言われますけど、文化は言葉も多様性というのが私たち奄美群島の魅力の一つでもあると思うので、みなさんもいろんな方とお話しされた時に「あっ、この人はどこの人だ」っていうのがなまりでわかったりすると思うんです。そう言うのをなるべく残していくためにも語り部を探しながら自分たちシマの言葉を学ぶことができるきっかけになるように、また番組を作っていきたいと思います。

袴 委員長

自分がここ一年くらいで使ってる方言をあいうえお順にまとめてあるから次持ってくるよ。あんまり沢山はないけどね。場所名とか体の部位ごとに分けて書いてあるから。ある程度わかりやすいと思うよ。

-放送局 渡 ありがとうございます。凄い貴重ですね。

袴 委員長 シマグチは続けてもらってね。あまみエフエムさんに頑張ってもらいます。

後藤 委員

今、大和村の公民館講座でシマグチ教室に通い始めたんですけど、今年度の最終目標が通ってる生徒さんが、島の昔話の本をシマグチでなんと書いた、その訳とシマグチバージョンとそれを言葉に出して発表するっていうのが一応目標になってて、音が残ってなくて中山ショウジ兄の言う事をリピートアフターミーしてみんな喋ってるんですけど、本当に音を昔の物語を音に残すっていうのも、すごいわかりやすいような気がします。ストーリーがあれば。

-放送局 渡

そうですね。

すいませんちょっと長くなってすいません。貴重なご意見ありがとうございました。また一番島の根幹とも言える言葉のことですので、また、残して行ける啓発活動ができるようなお手伝いしたいと思います。また来年二月にはシマグチサミットというのが全国でのサミットが奄美市であるので、またお手伝いもできればと思います。本当ありがとうございました。またどなたか面白い方いらっしゃったらぜひご紹介ください。今日は本当にお忙しい中ありがとうございました。

山田 委員

楽しかったです。

ありがとうございました。

5 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

6 審議会機関の答申又は意見の外用を公表した場合における、

その公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送：令和元年9月15日(日)
- ② 書面の備置き：令和元年9月15日(日)から、当該事項を記載した書面（議事録）を当法人事務局へ備置き、聴衆者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット：令和元年9月15日(日)より当法人インターネットのホームページに転載

7 その他の参考事項 なし